

令和 2 年 6 月 8 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(B)（海外学術調査）

研究期間：2017～2019

課題番号：17H04510

研究課題名（和文）東南アジアにおける応答性の政治－アカウンタビリティ改革の導入とポピュリズムの台頭

研究課題名（英文）Politics of Accountability in Southeast Asia

研究代表者

見市 建（Miichi, Ken）

早稲田大学・国際学術院（アジア太平洋研究科）・教授

研究者番号：10457749

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,900,000 円

研究成果の概要（和文）：東南アジア各国のアカウンタビリティ改革とポピュリスト政治家台頭がもたらす民主主義へのインパクトについて、それぞれの研究分担者が分析を試み、国内外のジャーナルに研究成果を発表した。その上で、とりわけソーシャルメディアがもたらす民主主義への影響という側面から、『ソーシャルメディア時代の東南アジア政治』（明石書店、2020年3月刊）を取りまとめた。同書では、主として権力エリートや多様な社会勢力がソーシャルメディアを活用（悪用）手段を洗練させ、その結果、民主主義への負の効果がより目立っていることを示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

我が国とも関係が深い東南アジア諸国における近年の政治動向について、とくにソーシャルメディアをめぐる新しい現象について、その捉え方を示した。その成果は国内外の査読誌に掲載された他、日本語の一般書として世に問うた。

研究成果の概要（英文）：This research project analyzed accountability reforms and the rise of populist politicians in Southeast Asia and examined the impact on democracy. As an outcome, it published the book "Southeast Asian Politics in the era of Social Media" (in Japanese, Akashi Shoten, March 2020). It demonstrated that the negative impact of social media because of the increasing usage and abuse of social media by political elites and various social groups.

研究分野：地域研究

キーワード：東南アジア アカウンタビリティ 民主化 ポピュリズム 権威主義

1．研究開始当初の背景

近年、行政、企業経営、医療、教育、国際協力など様々な分野において「アカウンタビリティ」への注目が高まっている。なかでも本研究課題の鍵概念である、政治における「アカウンタビリティ」とは、政府が情報開示を通して、政策決定および帰結に関して市民に回答する責任を負うこと、及び、政府がその責任遂行を怠った場合に制裁が課されることを意味する。政治における効果的なアカウンタビリティ・メカニズムの存在は、政府への正統性を与えるだけでなく、市民の選好に政治家の行動を近づけることを可能にする。またガバナンスにおいて、公共サービスの効率的かつ効果的な提供が期待される〔粕谷・高橋 2012〕。

これまでの政治学におけるアカウンタビリティの主たる研究対象は成熟した民主主義国であったが、新興民主主義国においてもアカウンタビリティ改革がなされるようになってきている。すなわち、冷戦終結後に多数の国が民主化を達成したことで、民主化研究の主たる関心は民主主義への移行と定着から、政治腐敗や汚職の撲滅、公共サービスの効率化といった民主主義の「質」の向上に至り、アカウンタビリティはその手段として注目を集めているのである〔Diamond and Morlino 2005〕。さらにアカウンタビリティ制度が脆弱な権威主義国でも、条件によっては公共サービスの提供や格差拡大の緩和につながっているとの研究がある〔Tsai 2007〕。

東南アジアにおいても、さまざまなレベルでアカウンタビリティを高めるための諸制度が導入され、国内政治のゲームのルールに変更を迫っている。国家内の独立機関に加え、メディア、NGO や宗教組織を含む社会アクターがアカウンタビリティを行使する主体として台頭、「道徳的イデオロギー」に訴える政治が力を持つようになってきている〔Rodan and Hughes 2014〕。また急速に国際協力（国際的アカウンタビリティの導入）が進んでいる。

東南アジア諸国に特徴的なのは、各国が東南アジア域内の動きを注視しながら、同時期に類似する制度を導入、あるいは域内で国際的なアカウンタビリティ・メカニズムを採用していることである。しかしながら、アカウンタビリティ諸制度導入の政治過程や政治的帰結は各国でかなりの差異がある。そして民主化が定着しつつあるインドネシアやフィリピンのみならず、マレーシアやシンガポールのような半権威主義国家、またミャンマーやラオスのような権威主義国家においてもアカウンタビリティ制度が政治的に極めて重要になり、あるいはタイではアカウンタビリティ行使機関が民主化の動向を左右するキープレーヤーになっている。以上の特徴は、東南アジア域内外の比較研究の有用性と理論的貢献の可能性の高さを示唆している。

2．研究の目的

異なる民主化段階にある東南アジア諸国において、なぜ同時期にアカウンタビリティを高める制度改革が行われ、あるいは国際的なアカウンタビリティ・メカニズムが導入され、それはそれぞれの国内政治にどのような帰結をもたらしているのだろうか。さまざまな分野におけるアカウンタビリティ改革は、東南アジア諸国における国内政治のゲームのルールを変更するようになっている。本研究課題では、比較政治学における理論的發展を踏まえ、東南アジア6カ国（インドネシア、フィリピン、マレーシア、タイ、ミャンマー、ラオス）を対象に、比較に基づいた実践的かつ実証的な分析を行うことで、アカウンタビリティ改革をめぐる因果関係の解明、東南アジア政治研究および比較政治学における理論的貢献を目指す。

3．研究の方法

本研究課題の計画は以下のとおりである。第一に、アカウンタビリティ概念とその東南アジア政治研究における位置づけに関して、その定義や先行研究を概観する。第二に、各研究参加者が各国のアカウンタビリティ実施機関と連携し、アカウンタビリティを確保する制度・政策の要因および帰結について、共同で事例分析を行う。最後に、他地域の事例も視野に入れつつ、東南アジア7カ国の政治メカニズムの比較分析と理論化を行う。すなわちアカウンタビリティ改革が可能になる条件とその帰結について、一般化可能なモデルを提示し、東南アジア政治研究および比較政治学における理論的貢献を目指す。また初年度から、国内外の学会で成果報告を行い、最終成果として日本語および英語で出版する。

4．研究成果

東南アジア各国のアカウンタビリティ改革とポピュリスト政治家台頭がもたらす民主主義へのインパクトについて、それぞれの研究分担者が分析を試み、国内外のジャーナルに研究成果を発表した。その上で、とりわけソーシャルメディアがもたらす民主主義への影響という側面から、『ソーシャルメディア時代の東南アジア政治』（明石書店、2020年3月刊）を取りまとめた。同書の概要および分析結果は以下のとおりである。

東南アジア地域には比較的自由な民主主義から一党独裁や軍政の権威主義体制まで、幅広い類型の政治体制が存在しており、各国の民主化の度合いはさまざまである。しかし共通して、多くの国で人々によるソーシャルメディアの利用が選挙をはじめとする政治的競争のあり方を大きく変えている。本報告書では、自由の度合いに差はあれ、選挙が行われ、オープンな政治的競争が存在する5カ国（インドネシア、フィリピン、マレーシア、ミャンマー、タイ）を対象に、ソーシャルメディアと民主主義の関係について分析した。なお、最終的に選挙を中心とした政治的競争とソーシャルメディアの関係を共同研究の報告書の主眼としたために、当初比較研究の対象としていたラオスは個別に分析を行うこととした。

ソーシャルメディアは社会的なアカウンタビリティメカニズムとして、権威主義体制を含め、政治参加の裾野を広げ、民主化勢力をエンパワーするために不可欠なツールとなっている。他方で、比較的民主化が進行し、自由な競争が確保されている国では、多様なアクターがソーシャルメディアを容易に「悪用」する。とくに、権力エリートは、選挙や国民の批判に晒されやすいような政策形成、施行の局面において、自らの「民主的」正統性を演出することを目的とした情報操作を行なっている。その典型がポピュリスト政治家の台頭である。

東南アジアにおいてソーシャルメディアを先行して活用したのはおおむね非権力アクター（市民社会）であったが、次第に権力エリートや多様な社会勢力が活用（悪用）手段を洗練させつつある。その結果、民主主義への負の効果がより目立っているのが現状といえる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計21件（うち査読付論文 13件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 見市建	4. 巻 44
2. 論文標題 インドネシア・イスラーム保守化の真相	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 82-85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Jun Honna	4. 巻 24
2. 論文標題 Book Review: Electoral dynamics in Indonesia: money politics, patronage and clientelism at the grassroots, edited by Edward Aspinall and Mada Sukmajati	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Democratization	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/13510347.2017.1374372	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Wataru Kusaka	4. 巻 65
2. 論文標題 Bandit Grabbed the State: Duterte's Moral Politics	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Philippine Sociological Review	6. 最初と最後の頁 49-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 外山文子	4. 巻 19
2. 論文標題 タイにおける半権威主義体制の再登場—連続性と不連続性	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本比較政治学会	6. 最初と最後の頁 84-116
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1．著者名 中西嘉宏	4．巻 45
2．論文標題 ミャンマー・複雑化する「ロヒンギャ問題」の構図	5．発行年 2017年
3．雑誌名 外交	6．最初と最後の頁 28-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1．著者名 伊賀司	4．巻 55（1）
2．論文標題 マレーシアにおけるメディア統制と与党UMNOの起源—脱植民地期のマレー語ジャーナリズムと政治権力	5．発行年 2017年
3．雑誌名 東南アジア研究	6．最初と最後の頁 39-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1．著者名 Tsukasa Iga	4．巻 23
2．論文標題 The Political Economy of Affordable Housing in Malaysia	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Kyoto Review Southeast Asia	6．最初と最後の頁 N.A.
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1．著者名 伊賀司	4．巻 17（1）
2．論文標題 現代マレーシアにおける「セクシュアリティ・ポリティクス」の誕生—1980年代以降の国家とLGBT運動	5．発行年 2017年
3．雑誌名 アジア・アフリカ地域研究	6．最初と最後の頁 73-102
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1．著者名 茅根由佳	4．巻 11
2．論文標題 現代インドネシアにおける宗教的少数派抑圧のメカニズム - マドゥラ島サンパン県のシーア派追放事件を手がかりに	5．発行年 2018年
3．雑誌名 イスラーム世界研究	6．最初と最後の頁 207-224
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1．著者名 見市建	4．巻 675
2．論文標題 インドネシアにおける「イスラームの位置付け」をめぐる政治的闘争	5．発行年 2018年
3．雑誌名 国際問題	6．最初と最後の頁 29-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1．著者名 茅根由佳	4．巻 60-1
2．論文標題 民主化後のインドネシアにおけるイスラームの「保守転回」	5．発行年 2019年
3．雑誌名 アジア経済	6．最初と最後の頁 68-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24765/ajiakeizai.60.1_68	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1．著者名 木場紗綾	4．巻 26-1
2．論文標題 コミュニティ・ポリシングの脱西欧化: ドナーは武装集団をどのように扱うべきか	5．発行年 2018年
3．雑誌名 国際協力論集	6．最初と最後の頁 75-99
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24546/81010510	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 木場紗綾	4. 巻 48-4
2. 論文標題 米中の中で揺れる東南アジアの外交と日本の関与	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会科学	6. 最初と最後の頁 25-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14988/pa.2018.0000000386	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 外山文子	4. 巻 03/15/2019
2. 論文標題 タイ民主化はどこに向かうのか 憲法裁判によるタックシン派政党の解党から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ANGLE	6. 最初と最後の頁 ページなし
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ken Miichi	4. 巻 27-3
2. 論文標題 Urban Sufi and politics in contemporary Indonesia: the role of dhikr associations in the anti- 'Ahok' rallies	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 South East Asia Research	6. 最初と最後の頁 225-237
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/0967828X.2019.1667110	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ken Miichi and Yuka Kayane	4. 巻 8-1
2. 論文標題 The Politics of Religious Pluralism in Indonesia: The Shi'a Response to the Sampang Incidents of 2011-12	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 TRaNS: Trans-Regional and -National Studies of Southeast Asia	6. 最初と最後の頁 51-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/trn.2019.12	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1．著者名 伊賀司	4．巻 49-2
2．論文標題 2018年マレーシア総選挙における希望連盟(PH)のメディア・コミュニケーション戦略	5．発行年 2019年
3．雑誌名 社会科学	6．最初と最後の頁 29-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14988/pa.2019.0000000278	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1．著者名 茅根由佳	4．巻 19-1
2．論文標題 現代インドネシアにおけるシーア派排斥運動の台頭とその限界	5．発行年 2019年
3．雑誌名 アジア・アフリカ地域研究	6．最初と最後の頁 29-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14956/asafas.19.28	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1．著者名 茅根由佳	4．巻 60-1
2．論文標題 民主化後のインドネシアにおけるイスラームの「保守転回」	5．発行年 2019年
3．雑誌名 アジア経済	6．最初と最後の頁 68-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24765/ajiakeizai.60.1_68	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1．著者名 日下渉	4．巻 22
2．論文標題 フィリピン2019年中間選挙ー ドゥテルテによる「例外常態」の常態化	5．発行年 2020年
3．雑誌名 ワセダアジアレビュー	6．最初と最後の頁 15-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 見市建	4. 巻 22
2. 論文標題 武装闘争派、初めて選挙に参加する：インドネシア大統領における分極化の帰結	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ワセダアジアレビュー	6. 最初と最後の頁 21-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計19件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 11件）

1. 発表者名 見市建
2. 発表標題 インドネシア・ジャカルタ州知事の「宗教冒涇」に対する抗議運動とその政治的帰結
3. 学会等名 日本比較政治学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 本名純
2. 発表標題 民主化定着期インドネシアにみるナショナリズムとグローバリズムの国軍政治
3. 学会等名 日本比較政治学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 日下渉
2. 発表標題 「義賊」の民主主義は可能か？ーフィリピン、ドゥテルテ大統領の社会構築
3. 学会等名 グローバル・ガバナンス学会
4. 発表年 2017年

1．発表者名 日下 渉
2．発表標題 道徳で救う命、棄てる命ードゥテルテの麻薬戦争
3．学会等名 国際政治学会
4．発表年 2017年

1．発表者名 Yoshihiro Nakanishi
2．発表標題 In Search of Legitimacy: New Face of the Military under the Political Liberalization in Myanmar
3．学会等名 International Conference on Opportunities and Challenges of Democratization in Myanmar (国際学会)
4．発表年 2017年

1．発表者名 Win Myat Aung and Yoshihiro Nakanishi
2．発表標題 Back to People ' s Army?: Reforms of Myanmar ' s Armed Forces after 2011
3．学会等名 SEASIA (国際学会)
4．発表年 2017年

1．発表者名 Saya Kiba
2．発表標題 Theory and Practice of Military and National Development in Asia
3．学会等名 SEASIA (国際学会)
4．発表年 2017年

1．発表者名 木場紗綾
2．発表標題 菲律政府困毒品取一事的包容和排除
3．学会等名 International Symposium on "Past, Present and Future of the Welfare State (招待講演) (国際学会)
4．発表年 2017年

1．発表者名 Tsukasa Iga
2．発表標題 Re-Authoritarianing Malaysia? Political Scandals and Problems of Accountability in the Post-Mahathir Era
3．学会等名 Korean Association of Southeast Asian Studies Annual Conference 2017 (国際学会)
4．発表年 2017年

1．発表者名 Yuka Kayane
2．発表標題 The Mechanism of Religious Intolerance in Contemporary Indonesia: A Case of Violence against Shi 'a Minority in Sampang Regency, Madura
3．学会等名 Young Scholar Workshop 2017 (国際学会)
4．発表年 2017年

1．発表者名 伊賀司
2．発表標題 政治開放期マレーシアにおける都市住宅政策過程:BN体制下の住宅消費者運動の成功と限界
3．学会等名 東南アジア学会
4．発表年 2018年

1．発表者名 Jun Honna
2．発表標題 Mutual Love or Marriage of Convenience? Right-Wing Populism and Islamic Populism in Indonesia
3．学会等名 Indonesia-Japan Bilateral Dialogue: Symposium on Commemorating the 60th Anniversary of Japan-Indonesia Diplomatic Relations (招待講演)(国際学会)
4．発表年 2018年

1．発表者名 Jun Honna
2．発表標題 The War on Drugs and Intra-Police Dynamics in Indonesia
3．学会等名 International Seminar: Changing Political Dynamics of Military, Police and Militia in Indonesia, Thailand and Myanmar (国際学会)
4．発表年 2018年

1．発表者名 本名純
2．発表標題 ガバナンスとしての戦争:インドネシアにおける麻薬との戦い
3．学会等名 人間の安全保障学会
4．発表年 2019年

1．発表者名 本名純
2．発表標題 越境組織犯罪と人権NGO:東南アジアにおける人身取引対策をめぐる2つの非国家主体
3．学会等名 国際安全保障学会
4．発表年 2019年

1．発表者名 外山文子
2．発表標題 『立憲主義』による権威主義体制の再構築—タイ2017年憲法の分析から
3．学会等名 日本比較政治学会
4．発表年 2019年

1．発表者名 Wataru Kusaka
2．発表標題 War on Drugs and State of Exception in the Philippines: When a Bandit Grabbed the State
3．学会等名 International Convention of Asia Scholars (国際学会)
4．発表年 2019年

1．発表者名 Yoshihiro Nakanishi
2．発表標題 'ASEAN Divide' Today: Emerging Convergence and New Divide in Southeast Asia
3．学会等名 ICDESA International Conference((招待講演)) (国際学会)
4．発表年 2019年

1．発表者名 Tsukasa Iga
2．発表標題 Mobilization for Election Monitoring and the First Government Change in Malaysia
3．学会等名 Consortium for Southeast Asian Studies in Asia (国際学会)
4．発表年 2019年

〔図書〕 計11件

1．著者名 外山文子・伊賀司・日下渉・見市建編著	4．発行年 2018年
2．出版社 明石書店	5．総ページ数 257
3．書名 21世紀東南アジアの強権政治―「ストロングマン」時代の到来	

1．著者名 Jun Honna	4．発行年 2017年
2．出版社 Routledge	5．総ページ数 262-275
3．書名 “Japan's Post-Cold War Foreign Policy toward Indonesia,” in James D.J. Brown and Jeff Kingston eds., Japan's Foreign Relations in Asia	

1．著者名 日下渉	4．発行年 2017年
2．出版社 国際書院	5．総ページ数 231-257
3．書名 「ビープル」の敵は誰か？―フィリピンにおける腐敗、貧困、犯罪の敵対化」、『「ポピュリズム」の政治学―深まる政治社会の亀裂と権威主義化』村上勇介（編著）	

1．著者名 Wataru Kusaka	4．発行年 2017年
2．出版社 National University of Singapore Press and Kyoto University Press	5．総ページ数 358
3．書名 Moral Politics in the Philippines: Inequality, Democracy and the Urban Poor	

1. 著者名 日下 渉	4. 発行年 2018年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 251-252
3. 書名 「格差と民主主義」、『現代アジア経済論－「アジアの世紀」を学ぶ』遠藤環・伊藤亜聖・大泉啓一郎・後藤健太（編著）	

1. 著者名 Jun Honna	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 285
3. 書名 “Civil-Military Relations in an Emerging State: A Perspective from Indonesia's Democratic Consolidation,” in Keiichi Tsunekawa and Yasuyuki Todo eds. Emerging States at Crossroads	

1. 著者名 見市建(編)、茅根由佳(編)、本名純、日下 渉、木場紗綾、伊賀司、中西嘉宏、外山文子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 176
3. 書名 ソーシャルメディア時代の東南アジア政治	

1. 著者名 Jun Honna	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Silkworm Books	5. 総ページ数 488
3. 書名 “Indonesia: Dominance, Twilights, and Legacies of Power,” in Volker Grabowsky and Frederik Rettig (eds.), Armies and Societies in Southeast Asia	

1. 著者名 Yoshihiro Nakanishi	4. 発行年 2020年
2. 出版社 National University of Singapore Press and Kyoto University Press	5. 総ページ数 328
3. 書名 “Fragile Balance of Civil-Military Relations in Myanmar” Pavin, Chachavalpongpun, Elliott Prasse-Freeman and Patrick Strefford (eds.,) Unraveling Myanmar 's Transition: Progress, Retrenchment, and Ambiguity Amidst Liberalization	

1. 著者名 見市建、伊賀司	4. 発行年 2020年
2. 出版社 人間文化研究機構地域研究推進事業「現代中東地域研究」	5. 総ページ数 225
3. 書名 松本弘編『中東・イスラーム諸国政治変動ハンドブック2019』	

1. 著者名 外山文子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 392
3. 書名 タイ民主化と憲法改革：立憲主義は民主主義を救ったか	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	伊賀 司 (Iga Tsukasa) (00608185)	京都大学・東南アジア地域研究研究所・連携講師 (14301)	
研究分担者	本名 純 (Honma Jun) (10330010)	立命館大学・国際関係学部・教授 (34315)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	木場 紗綾 (Kiba Saya) (20599344)	公立小松大学・国際文化交流学部・准教授 (23304)	
研究 分担者	外山 文子（坂野） (Toyama Ayako) (50748118)	立命館大学・衣笠総合研究機構・研究員 (34315)	
研究 分担者	中西 嘉宏 (Nakanishi Yoshihiro) (80452366)	京都大学・東南アジア地域研究研究所・准教授 (14301)	
研究 分担者	日下 渉 (Kusaka Wataru) (80536590)	名古屋大学・国際開発研究科・准教授 (13901)	
研究 分担者	瀬戸 裕之 (Seto Hiroyuki) (90511220)	新潟国際情報大学・国際学部・准教授 (33107)	
研究 分担者	茅根 由佳 (Kayane Yuka) (70772804)	筑波大学・人文社会系・助教 (12102)	